すべては子どもたちの笑顔のために　　東信教育事務所だより

響

特別号　研究主任通信1号

令和２年１１月６日（金）

※本紙は研究主任の先生にお渡しください。

第2回研究主任会　それぞれの分科会をつなぐ

８月 28 日（金）には会場を分散し、以下の分科会に分かれて研究主任会が行われました。

- 第１分科会：新学習指導要領における評価について
- 第２分科会：全国学力・学習状況調査問題の活用例について
- 第３分科会：校内の研究推進について（初めての研究主任の先生方向け）

多くの会議や研修会が中止になったり、オンラインによるものになったりする中、今回、会場を分科会ごとに分散することで、顔を合わせながら実情や悩みを出し合い、話し合いができる会にしました。このような開催に対して、多くの先生方から「貴重な機会になった」という感想をいただきました。

しかし、今回の研究主任会は、それぞれの分科会が分散会場であったことから、それぞれの内容について共有できない面もありました。この研究主任通信では、それぞれの分散会における先生方の声から学び、それぞれの分科会をつなぐものになることを目指します。

Ⅰ　研究主任の役割について考える（第3分科会より）

＜A 先生の感想より＞

…知識も経験も豊かなベテランの先生方とも、勢いのある若手とも関係を密にしてつなぎ役になれればなと思います。…今の自分は何かをはっきり示すというのは難しいなと思います。**「できない自分」「分からない自分」をさらけ出すことで、先生方の学ぶ雰囲気を創っていけたらな、そのモデルになりたいな**と思います。

キーワード：つなぐ・共有する

「できない自分」「分からない自分」をさらけ出すことは勇気のいることです。でも、そんな自分をさらけ出すところから先生方をつなぎ、学び合いが始まります。

研究主任の先生方ができるところから
「研究通信」や「職員室での掲示」等を使って

- 学校で目指す子どもの姿を共有したり、
- 研究の方向（テーマや重点）をみんなで意識したり、
- 先生方の日ごろの実践の良さをつないだり、
- 先生方で学び合う雰囲気を創ったり

していきましょう。

一人一公開の授業の様子をミニポスターにまとめて職員室に掲示

２ 「指導と評価の一体化」に向けて（第１分科会より）

＜Ｂ先生の感想より＞
「知識・技能」と「思考・判断・表現」の区別がついていない自分に気付いた。**評価規準を自分自身がきちんともつことが大切**であり、授業でブレずに子どもと向き合えるのだと感じた。評価の観点は今一度学ぶ必要があると感じた。

キーワード：つける力の明確化

Ｂ先生の感想にある「評価規準を自分自身がきちんともつ」ということは、その単元、あるいは１時間の授業でつける力が明確になっているということです。その評価規準をきちんともつためには、育む資質・能力の３つの観点を理解できているかが重要、まさにＢ先生の感想の通りです。

先生方は、それぞれの教科で

ア　「知識・技能」の育成とは
どのようなことを理解したり、できるようになったりしている姿なのか

イ　「思考力・判断力・表現力等」が育まれている姿はどのような姿なのか

ウ　「主体的に学習に取り組む態度」はどのような姿なのか

子どもたちの具体的な姿を思い描くことができるでしょうか。ここが明確になっていないとねらいが明確にならないので評価につながりませんね。

第１分科会の先生方に、下の①・②の問題は、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」のいずれかを問う（評価する）問題なのか考えてもらいました。各学校でも先生方に問いかけて、各教科におけるそれぞれの観点がどのような思考の働きや姿なのか確認するきっかけにしてみてはどうでしょうか。

＜令和２年度全国学力学習調査　算数の問題より＞

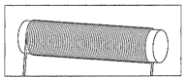
①わたるさんたちは、男子走り高とびのオリンピック記録について話し合っています。
（中略）
わたるさんの身長は１５０ｃｍです。
わたるさんの身長の１．３倍の高さは何ｃｍになりますか。求める式と答えを書きましょう。

知識・技能を問う問題

思考力・判断力・表現力等を問う問題

②あいりさんたちは、円についての学習をした後、見本のコイルに使われているストローの切り口が円であることに気付きました。見本のコイルには、エナメル線が、すき間なく、重なりがないように巻かれています。

見本のコイル



（中略）

見本のコイルのストローに巻いてある部分のエナメル線のおよその長さは、ストローに巻いてあるエナメル線の１巻きの長さと、あと１つ何かを調べれば求めることができます。何を調べればよいですか。
下の１から４までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。（後略）

＜先生方の感想より＞
評価は**“教師自身の授業を見返す評価でもある”**というお話が一番胸に落ちました。

「指導と評価の一体化」は、つける力が子どもたちについたかを評価し、ついていなければ次の指導・支援を考えるというサイクル。つける力をつけることができなかった自身の授業を見返し、授業改善につなげることも大事な点です。

＜C 先生の感想より＞
・・・日々の授業に追われ、**結果として最後は「テストで評価」となってしまうので、途中経過を大切にしていきたい**なと思いました。

キーワード：多様な評価方法

C 先生の感想のように「テスト」のみで評価することからの脱却は、資質・能力を育む上で大事なポイントですね。資質・能力は１時間の授業で育まれるものではなく、「単元や題材のまとまり」が大切とされています。特に「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の育成は、C 先生の言う通り「途中経過」で評価し、次への指導・支援につなげていくことで一層育まれていくものです。どのような場面で、どのような力を育成するのか明確にして評価し、規準に達していなければさらなる指導・支援をして育成に努めていくことが大切です。このことを意識した次のような感想は参考になります。

＜先生方の感想より＞
「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価していくか課題だと思います。授業の裏返しと考えますが…。社会科では、**レポートを単元末に書かせたり、「思考・判断・表現」を評価する授業では振り返りをまとめさせたりとねらいを明確にして書かせる機会を増やしています。**難しいのは教科会間での共有です。今後の課題にしたいと思います。

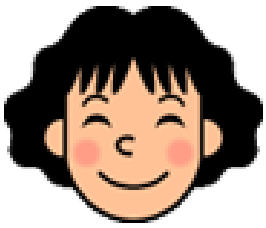
評価の方法の具体例 ： レポートの記述内容、授業の振り返り（ノートや学習カード等）の内容

＜先生方の感想より＞
「思考・判断・表現」の評価場面を具体例で示していただきわかりやすかった。**「何故そう考えたのか＝根拠」を一人ひとりの学びの中で意識付け、教師と子ども双方で捉えられるような授業計画を立てていきたい**と思った。

評価の方法の具体例 ： 授業中の発言やノート、学習カード等の記述の内容

さらに具体ということであれば、
①長野県学習支援ポータルサイト「まなびすけ信州」には、評価について教科ごとに具体的な例が掲載してあります。
※学校ごとにある ID とパスワードを入力してログインしてください。
②研究主任会でもお伝えした国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」には単元展開例と共に具体的な評価方法の例があります。

3　全国学力・学習状況調査をいかに活かすか（第2分科会より）



＜D 先生の感想より＞
　全国学力・学習状況調査の問題等の利用について悩んでいたが、結果の利用もあるが、授業の中で扱い、今後つけたい力が身につくようにしたい。**６学年の以外の先生が全国学力・学習状況調査の内容を知っておくことが大切だ**と思った。

キーワード：全学年、全教科で

　全国学力・学習状況調査を、当該学年である小６や、中３の実施教科（国語、数学、不定期には理科や英語）だけのものと考えてしまうのはもったいない。
　教師自身が問題を解きながら自身や子どもの思考を分析することで、「どのような力を育成することが大事なのか」という問題に込められたメッセージが見えてきます。調査結果から実態を分析することも勿論大事ですが、出題の意図、込められたメッセージをみんなで読み解き、それぞれの学年、教科に引き寄せて考えていくことが、学校全体での授業改善への取組につながります。
　ある小学校では、夏休み中の学力向上に関する研修会で、全国学調の６年生の結果を全校で共有するとともに、全国学調の「思考力・判断力・表現力等」を問う特徴的な１問を全職員で解いて、次のことを考えました。

①問題を解くためにどのような力が大事になるか。

⇒その研修の中で「問題を読み解く読解力」、「生活の中にある教科的な要素を見抜く力」、「情報を関連させる力」等が見えてきました。

②自分の学年に引き寄せて、その力をつけるためにどのような学習活動が必要か。

⇒ある学年では、「算数の授業で生活の中にある出来事から学習問題を作り、その中の算数的な要素を取り出す活動を意識して行うようにする」いったポイントが出てきました。

③そのような学習活動を２学期のどの単元で意識して行うか。

⇒②の学習活動について、学年で共通して必ず行う単元を１つ決めだし、活動の具体を話し合って付箋に書き、教師が日ごろ使っている教科書のその単元のページに貼りました。

　また、全国学調だけでなく、県立中学校の適性検査問題や県立高校の入試問題からも出題に込められたメッセージを読み取ることができますよ。

（※本通信とともに、長野県の子どもたちが苦手と考える問題をそれぞれ１問ずつピックアップした「令和２年度全国学力・学習状況調査問題【抜粋】（学びの改革支援課作成資料）」を添付しました。上記のような研修にご活用ください。）

　この研究主任通信では、第２回の研究主任会に参加された先生方の声を「つなぐ」ことを目指しました。第３分科会（初めての研究主任の先生方）へ参加された先生方の声の中には次回の研究主任会への要望として、評価に関する研修を望む声が多くありましたが、今回の第１分科会（学習評価について）で研修を積まれた先生方の声は大いに参考になるのではないでしょうか。次回の研究主任会は、２月４日（木）です。研修内容に関しては後日、お知らせします。